

3.5 節 : 「クイックソート」に関する補足説明

Algorithm 3.4 において, 選択されるピボット a が要素列の最大値だった場合, この手続きは無限ループに陥ってしまう. また 44 ページでも述べたように, ピボット a が要素列の最小値だった場合も, 分割がアンバランスとなり効率が大きく低下してしまう. したがって, 45 ページで述べたように, ピボットとして選択される要素は, 最小値でも最大値でもなく, 可能な限り中央値に近くなるようにすることが重要である. 3 つの要素をとってきてその中央値をピボットとする方法などがそのような手法の代表例である.